

第3学年 道徳学習指導案

平成28年6月16日(木) 第5校時

- 1 主題名 温かい心を大切に 2-(2) 思いやり・親切
- 2 資料名 「一さつのおくりもの」 (「明るい心で」東京書籍)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学年内容項目2-(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」ことをねらいとしている。これは、低学年内容項目2-(2)「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」を受け、高学年の内容項目2-(2)「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」へとつながっていく。さらには、中学校内容項目2-(2)「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」へと発展していく。

よりよい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を考えて、自分の思いを相手に向けることである。そしてその思いやりは、相手を温かく見守りながら接したり、相手の立場に立った励ましや援助を行ったりする親切な行為として表れるものである。親切は、相手をあわれんだり、見返りを期待したりして行うものではない。現代の社会においては、社会全体のことを考えず、個人の利害損得が優先してしまう傾向があり、子供たちの中にも「自分さえよければ」という考えや、他人が困っていても無関心であることがある。相手のことを思いやり、本当の意味で親切にすることは、お互いを気持ちよくし、よりよい人間関係を築いていく上で大切であるということに気付かせたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、クラスに困っている友達がいるとすぐにかげよって助けたり、担任に対しても、「先生手伝います」と声をかけてくれたりする温かさがある。四月の学級開きでも、3年3組をどんなクラスにしたいかと問うと、「やさしいクラス」「みんなのことを考えられるクラス」といった答えが返ってきた。一方で、いまだ幼さが残り、どうしても自分中心の言動をとってしまうことが多い。その都度、相手やまわりの人たちの気持ちを考えることの大切さや、相手の気持ちを考えた言い方・態度を具体的に示しながら、思いやりのある言動がとれるように指導している最中である。

国語の音読発表会では、班で役割を決める際、自分の思いを通そうともめていたが、そのような中でも、友だちの気持ちを考え、譲ってあげられた児童を称賛し、相手を思いやることで活動が楽しく進むことを伝えた。体育の体ほぐしの運動では、ペアやグループで相手に声をかけ・気遣いながら運動できるよう促した。算数の時間には、どうしても個人差がある中、できた児童に進んで教える役を与え、友達同士楽しそうに活動できるようになってきている。5月からスタートした「かしの木グループ(縦割り班)活動」では、1・2年生に優しくしようという意欲をもっている児童が多いので、今後も下級生に対する思いやりを育てていきたい。また本学級では、帰りの会に、友達の思いやりのある行動を「今日のスパイスさん」として発表させており、児童は毎日嬉しそうに発表している。

思いやりの心や親切にすることの大切さを学ぶ機会は、児童の日常生活の中にあふれている。そして、児童は、親切にすることのよさを感じている。しかし、先にも述べたように、自分のことに夢中になってしまうと、相手の状況を考えられず、思いを相手に向けることが難しい。あるいは、思いはあっても、それをいざ行動で表すとすると、戸惑ったり勇気が出なかったりする場合も多い。それらを踏まえながら、本時ではやさしさあふれる資料を通して、親切にすることのよさや難しさについての考えを深めていく。主人公に自分を重ねさせながら、相手のことを思いやり進んで親切にすることの大切さ、気持ちよさを考えさせたい。

(3) 資料について

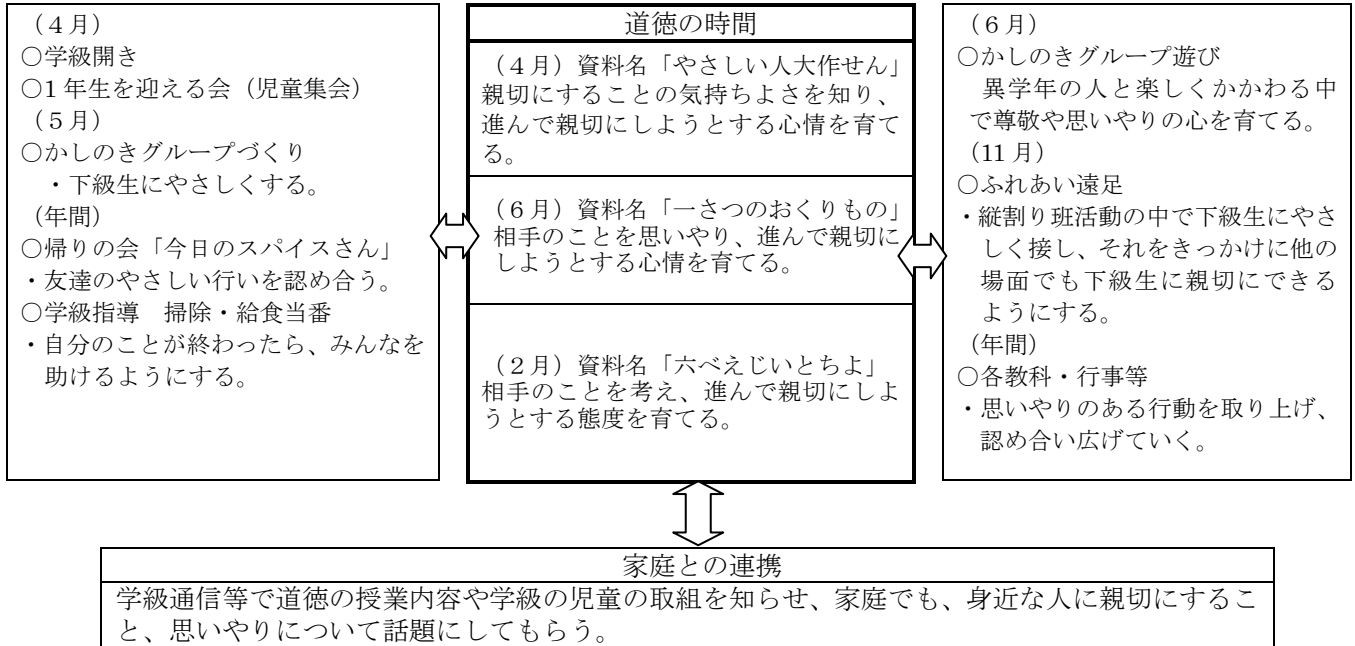
主人公のクマタは、絵本「貝がらのおくりもの」が大のお気に入り。毎日欠かさずこの本を読み、本の中のキツネに語りかけている。しかし、その大好きな絵本を手放すことになる。大水害があった山向こうの村の子どもたちを見舞うため、クマタは悩みに悩んで、大好きな絵本を送ることに決めたのだ。しばらくたって、その本を受け取ったウサギからクマタに手紙が届く。その手紙を読んだクマタは、嬉しくなり、ウサギに返事を書く。

絵本の話、クマタが悩みに悩んだ末その大好きな本を遠くで困っている人のために送ったこと、さらにはそのクマタのやさしさに触れたウサギが手紙を書いたこと—この資料全体から、相手を思って親切にすることの温かさが伝わってくる。

中心発問では、クマタが大切にしてきた絵本をふかみどり村の人たちにおくるかどうか悩んでいる場面のクマタの気持ちを考えさせる。ここは、相手の助けになりたい・喜んでほしいという思いや、やはり自分の大切なものはあげられないという思いなどで心が揺れ動く場面である。二つの思いを対話させたり、切り返しの発問を工夫したりすることで、児童の多様な考えを引き出したい。

その前の発問では、クマタにとっていかに絵本が大切なものなのか、絵本のキツネの行いに対してどんな思いをもっているのかを考えさせることで、中心発問へとつなげていく。また、相手を思いやり親切にすることの気持ちよさを実感できるように、三つ目の発問では、自分の行いが相手に喜ばれたときの思いを考えさせる。また、その親切の輪はさらに広がっていくことにも気付かせたい。

4 他の教育活動との関連



5 本時のねらい

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

6 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆ (児童) ◇ (教師) 評価【評価方法】	時間
導入	1 思いやり・親切についてふれる。		・ 普段の生活の中で見かけるやさしさ・親切な行いについてとりあげ、価値への方向付けを行う。	3
展	2 資料「一さつのおくりもの」の条件・状況を聞き、話を聞く。 ・ このお話でいいなと思ったところはありませんか。	登場人物：主人公…クマタ 条件・状況：主人公のクマタは、絵本「貝がらのおくりもの」が大のお気に入り。毎日欠かさずこの本を読み、本の中のキツネに語りかけている。でも、その絵本とお別れしなければならない出来事が起こる。 ・ クマタが自分の大切な本を他の人のために送ったところ。 ・ 本をもらったウサギからお礼の手紙がきたこと。	・ 事前に絵本「貝がらのおくりもの」の読み聞かせを行っておき、「実はこの本の持ち主はクマタだ」というところから資料の内容につなげる。	7
開	3 主人公「クマタ」の気持ちを中心に話し合う。 (1) クマタは、「貝がらのおくりもの」のことをどんなふうに思っていたのだろう。	・ ぼくの大切な本。宝物。 ・ いつまでも大事にしたい。 ・ 大好きなお話。 ・ 心がやさしくなる。 ・ ぼくもキツネちゃんみたいになりたい。 でも、なれないかな。	・ 絵本を大切に思う気持ちや、キツネの子に対する思いを考えさせる。児童から出た意見からさらに問いかけたり、広げたりしながら意見を引き出す。	

(2) クマタはひとばん、どんなことを考えていたのだろう。

・「貝がらのおくりもの」はあげたくないな。

- ・ぼくの一番大切な本だもの。
- ・もう読めなくなるのはさみしい。
- ・他の本でいいかな。
- ・だれの所に届くかわからないし…。
- ・喜んでくれないかもしれない。

でも… ↑ ↓ どうしよう

・「貝がらのおくりもの」をおくってあげよう。

- ・傷がある本だとかっかりさせてしまう。
- ・ふかみどり村の子を喜ばせたい。
- ・ぼくはもういっぱい読んだから大丈夫。
- ・この本なら元気が出るはずだ。
- ・キツネくんのようにになりたい。
- ・ぼくより大変な思いをしているんだから。

(ひとばん悩んで)

・それでも「貝がらのおくりもの」をおくろうと決めたのはどうしてだろう。

- ・今は、自分のことより、困っている村の人を助けたい。
- ・この本で元気を出してほしい。

(3) ササエの手紙を読んだクマタはどんな気持ちになっただろう。

- ・本をおくってよかった。
- ・喜んでもらえて嬉しい。
- ・あこがれのキツネくんになれた。
- ・やさしくするっていいな。

⑨ お返事を書いたのはどうしてだろう。

- ・ぼくも嬉しくなったことを伝えたい。
- ・ササエさんにもっと喜んでほしい。
- ・もっと元気になってもらいたい。

・ふかみどり村の人のために何かしたいという思いはあっても、実際にそうするまでに様々な思い、葛藤がある。“あげたいけれどあげられない。どうしよう。”と迷っている心の内を一人一人にしっかりと考えさせる。

・「本をあげたい・あげられない」それぞれの思いを理由と共に、ペアで話し合い、全体で考えを深める。その際、二つの思いで揺れるクマタになって役割演技をしながら、さらに意見を引き出せるようにする。

・板書を整理し、児童の考えの助けになるようにする。

・自分のことより、相手のことを考え、思いを向けていることに気付かせる。

・親切や思いやりが伝わったとき気持ちを考えることでその嬉しさ、気持ちよさを実感させる。
・ササエがクマタを気遣う優しさにもふれ、思いやりはお互いの心をつなぐということにも気付かせたい。

・手紙をもらった喜びが、さらに返事を書こうという行為につながっている。親切・やさしさは広がっていくということを考えさせたい。

☆主人公に共感し、自分との関わりで、相手を思いやり進んで親切にしようとするということについて考えていたか。

【観察・発表】

◇発問の仕方や板書を工夫することで児童の考えを深めることができたか。

	見つめる	4 自分の生活をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が困っている時、大変そうだから助けてあげた。ありがたうって言われて嬉しかった。 ・困っている人がいても恥ずかしいから手伝えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人書かせることで、これまでの自分のあり方を見つめられるようにする。 ☆進んで親切にできた自分やできなかった自分をふり返ることができたか。【記述】 	5
終末	あたためる	5 手紙を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の親切な行いを伝えることで、親切にすることのよさを実感させる。 ◇児童の実践意欲につながる終末の工夫ができたか。 	3

7 評価の観点

☆主人公に共感し、自分との関わりで相手を思いやり進んで親切にしようとするについて考えることができたか。

☆進んで親切にできた自分やできなかった自分をふり返ることができたか。

◇発問の仕方や板書を工夫することで、児童の考えを深めることができたか。

◇児童の実践意欲につながる終末の工夫ができたか。

8 板書計画

親切って

ももき気およう
つつつくろれ
ととネ入つこい
元でちてんい
ききやくやく
しにれつた
てなれたた
あれたた
たか
い。

手紙

十日たって、手紙がとどく

おくる(こくる)ときめた

やっぱりふかみどり村の人の人の人が大事!
たすけたい
さみしいな...

家は水びたし学校でねとまり

ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。
変なことをして、おもしろい。

雨がふりつづいて...

ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。
ぼくは、この村の子は、すごく大
変なことをして、おもしろい。

クマタ 「貝がらのおくりもの」がお気に入り 毎日読んでキツネに話しかけている

9 資料分析表

場面	キーワード	主人公・相方の心の動き	発問・話し合い
<p>お気に入りの本を読むクマタ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとうれしく、ちょっとがっかり ・そっと話しかけました。「ぼくだったら、…あげたりはできないよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・いいお話だなあ。 ・この本はぼくの宝物だ。 ・キツネちゃんはえらいな。 ・キツネちゃん大すきだよ。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくもキツネちゃんみたくになりたい。 ・ぼくには、できないな。 ・自分の好きなものはあげられない。 	<p>○クマタはこのお話のどこが気に入ったのだろう。</p>
<p>大雨で「ふかみどり村」が大変なことになり、本を送ることにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なにかしてあげたくて… ・「貝がらのおくりもの」だけはえらぶつもりはありません。 ・ほかの絵本にはきずやよごれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・きっと大変だろうな。 ・ぼくにはできないことはないかな。 ・絵本を送ったら喜んでくれるかな。 <p style="text-align: center;">「貝がらのおくりもの」をあげたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふかみどり村の人に喜んでほしい。 ・キズがある絵本だとがっかりさせてしまう。 ・自分より大変な思いをしているんだ。 ・もうぼくは、十分読んだから大丈夫。 ・キツネくんのようにならなくちゃ。 ・ぼくより困っている人を助けたい。 ・大好きなこの本で元気になってほしい。 <p style="text-align: center;">↑↓</p> <p style="text-align: center;">あげたくない・あげられない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのお気に入りだから。 ・もう読めなくなるのはさみしい。 ・ずっとこの本と一緒にいたい。 ・キズがあっても他の本でいいかもしれない。 ・だれのところに行くかわからない。 ・よるこんでくれないかもしれない。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり、送ってあげたい。 ・読んで、元気を出してほしい。 ・自分のことなんかより、ふかみどり村の人のために！ 	<p>・ふかみどり村の家や道路は水につかり、学校でねとまりしている子もいると聞いたとき、どんなことを思っただろう。</p> <p>◎ひとばん考えているクマタ頭の中には、どんな考えがあったのだろう。</p>
<p>ウサギから手紙が届く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのこと、やさしいって。ああうれしい。 ・何べんも読み返しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい！やったー！！（←何が？）喜んでもらえた。 ・ぼくと同じように気に入ってくれた。 ・ふかみどり村の人の役に立てた。 ・やさしいって言っていってもらえた。 ・ぼくもキツネくんになれた。 ・大好きな本をおくってよかった。 ・心があつたかくなった。 ・気持ちがいい。 ・もっと元気にしたい。 ・もっとやさしくなりたいな。 ・また喜んでほしい。 	<p>○手紙を読んだクマタはどんな気持ちになっただろう。</p> <p>・お返事を書いたのはどんな気持ちからだろう。</p>